

ソバプロジェクト活動現場(集荷・選別)



プロジェクト技術者が現場に赴き、直接農民からの種子品質検査を実施している。

同時に集荷スタッフへの技術指導も行う。

ラシオ、ラオカイの2台の選別機稼動時にはプロジェクト技術者が選別技術指導を行っている。



プロジェクトと他組織との現場レベル連携

- JICA調査(プロ形、予備調査、無償)
- US Opium Survey
- UNODC Needs Assessment Mission
- WFPコメ支援
- その他(学術)調査



なぜソバが受容されたのか？



- ソバは適応性が広い
- 初期投入が少なく、栽培容易、短期間で生育可能
- 市場性がある
- JICA及び国境省による支援(技術、輸送、肥料)
- 現地グループとの密なコミュニケーション
- ミャンマー政府の理解が得られた
- 日本の支援である



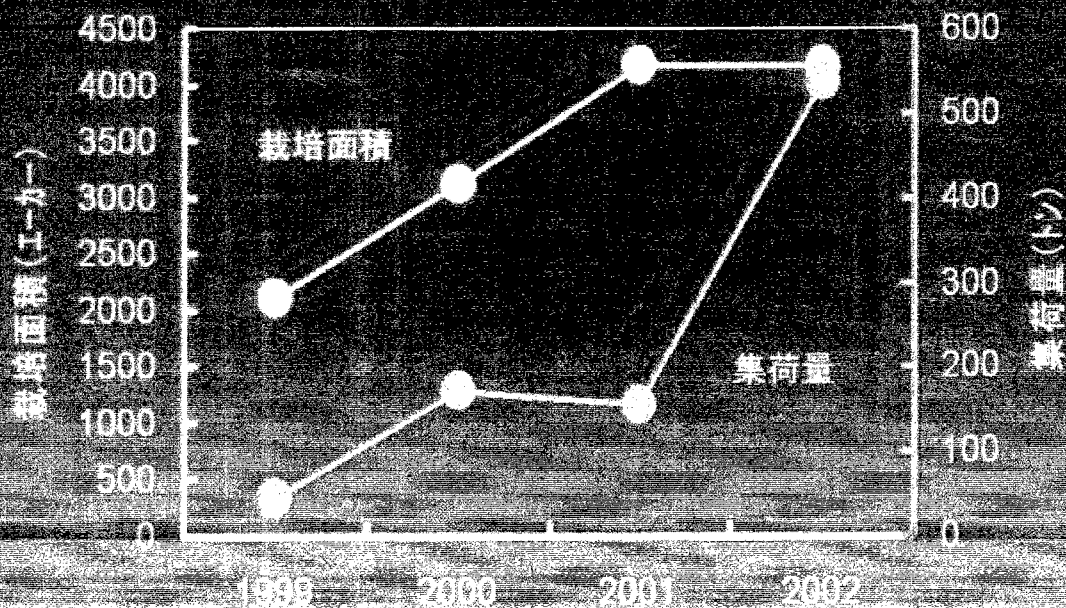
ソバプロジェクト直接受益者の規模 (2003)

	栽培面積 (エーカー)	受益世帯数	世帯平均面積 (acre)
コーカン	1600	1664	0.96
ムセ	600	158	3.80
チャウメ	250	35*	7.14
計/平均	2450	1857*	

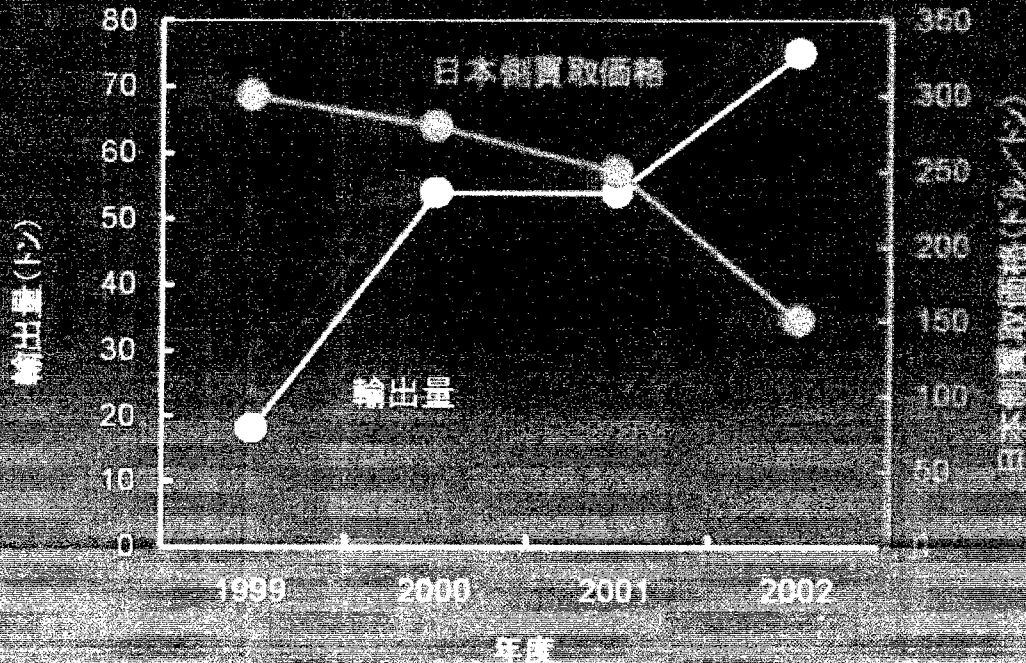
プロジェクトが実施前半にて直面した困難

- 当初現地グループ、ミ政府側もプロジェクトを警戒し、本当のケシ栽培地まで踏み込ませなかった。
- ケシを隠れて栽培する農家は、ソバ栽培のポーズだけとり、適切な栽培を行わない。
- ケシ代替作物支援についての理解が低く、関係者が利益優先の事業と勘違いしていた。
- 日本側－ミ政府側との相互理解・連携が悪く、栽培面積決定・ソバ買取決定の際に紛糾することが多く、活動が遅れた。

ソバ栽培面積と農民からの集荷量



ソバ輸出量及び日本側買取価格



プロジェクトのステージ

1998	1999	2000	2001	2002	2003
実施可能性検討	商業栽培開始 栽培技術の習得・蓄積	P/Nシステム構築開始		品質管理技術開始	品質向上の目標 自給的ソバ利用拡大
氏原短期専門家の技術指導	スタッフへの技術移転開始	面積地域の拡大	面積地域の拡大 肥料配布システムの変更 政府CP増員(2)	買付システムの変更 (MAPT⇒DPDC)	栽培適地の選定 買付システムの変更 (数量制限) 面積地域減少 技術専門家減(1) ハブプロジェクト再検討
	目標値による全量買付 (次年度用種子以外)	目標値による全量買付 (次年度用種子以外)	目標値による全量買付 (全作付) (次年度用種子以外)	目標値による全量買付 (全作付)	目標値による全量買付 (全作付)
	種子・肥料無償配布 (種子のみ)	種子・肥料無償配布	種子無償配布 (肥料のみ)	肥料無償配布 (種子含む)	種子・肥料無償配布

プロジェクトの直接成果(前半)

- 農民、グループ、ミ政府間との信頼関係構築
- 日本産ソバ栽培・品質実証
- 農民への栽培一般技術普及
- ケシ代替ソバ栽培の認知
- 栽培から輸出まで一連の流れを作り上げた

プロジェクトの直接成果(後半)

- ケシ撲滅によって困窮した農民への緊急的支援
(直接便益が農民に手渡される)
- ソバが農民作付体系の中に組み込まれる
- 栽培から品質向上技術の普及(途中)
- 他組織との情報共有・連携による波及効果